

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101581		
法人名	株式会社 やつかの郷		
事業所名	グループホームやつかの郷本館(西ユニット)		
所在地	松江市八束町二子1025番地9		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp">https://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成28年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設前に中海を望み、春には海岸道路に千本桜が咲くなど恵まれた環境の中、思い思いにゆったりと過ごしていただいています。ふれあいを大切に、一人ひとりが心地良い空間であるように努めています。  
 地域の方の協力を得ながら、施設の畑でできた新鮮な野菜や、地元の朝どれの魚を使った献立を栄養士が考え、利用者の方にも手伝っていただきながら毎食施設で調理しています。食堂兼リビングスペースには食事には美味しそうな食欲をそそる匂いが漂い、生活感を感じてもらいながら、利用者の方にとってご自分の家のような雰囲気を作れるよう心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平坦な地形と温暖な気候、春になると桜を始めとして一斉に花が咲き乱れるような大変自然に恵まれた静かな場所であり、来年で開所10年を迎える施設。2つのグループホームの他に有料ホームや小規模のデイサービスが同一敷地内にある。少しずつ地域との関係作りにも力を入れてきた成果が出てきており、畑作りや草取りの地域ボランティアの継続や、夕涼み会や交流会等のイベントでの協力体制に繋がってきている。中心市街地からやや距離がある為か、職員確保には苦慮しており、短期短時間パートや掃除のみのパート等複数の雇用形態の職員を組み合わせた体制になっている。安定しない職員体制の中でも研修や実習に参加したり、意見交換を行い他施設との関わりから良い刺激を受けるなど、向上心の高さが感じられた。以前の雪での被害を教訓に備蓄に努めている。大型冷蔵庫の利用で地産地消が食事に生かされている。今後も施設の利点を生かし地域の施設として活躍を期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やユニットに掲示意識付け、理念の意義を施設内研修で取り上げ、会議で議題にあげる等、意識統一に努めている。来年度開所10周年を機に職員が意見を出し合い新たな理念を作成し、日々の実践につなげていきたい。	開所当初からのメンバーも変わり、来年度10年の節目を迎える。外部研修に全員が参加し理念の必要性を再確認したことから、新たなものを作成してはどうかとの意見が出てきている。全体での朝礼も再開し思いの統一に向けての動きもある。	多くの職員が関わることで理念を作成し日々の実践につなげていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に畑の手伝いや施設の周りの草取り等のボランティアをしていただいたり、地域交流会や夕涼み会、新年会等の行事を通じてご利用者との交流の場を設けている。足湯もイベント時には開放し気軽に入っていたりしている。	行事の際の物品の貸し借りを機に地域の文化祭でPRの為にパネル展示に繋げることができた。草取りや窓ふき、畑の手伝い等の近隣の方のボランティアは年々増えてきており広がりを実感。行事参加から、推進会議の参加へと繋げることもできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の文化祭「健康福祉まつり」の健康・福祉に関する展示と体験にて、グループホームの紹介と施設での様子についてパネル展示を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者の参加で2カ月に1回運営推進会議を開催し、活動報告と今後の予定を伝え意見交換を行っている。地域関係者として地域の駐在さんの参加を得て話をしてもらったり、感染症についての勉強会を行う等幅広い内容の検討を行っている。	家族関係者、ボランティア、地区長、駐在の方、行政関係者等の参加で定期に開催。行事や研修等の活動報告や今後の予定を伝え意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加があり、意見交換を行っている。包括には施設の空き状況を伝え利用者の紹介をお願いしたり、生活保護担当者には生活の状況を伝えたりして日頃から協力関係が築けている。	市町村からは介護保険制度だけではなく、現状で役立つ幅広い内容に於いて意見を得ており、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊される方もおられるが施錠はせず、所在確認し一緒に歩くことで、拘束はしない対応をとっている。外部研修への参加や施設内研修を行い拘束しないケアを実践している。	隣の施設に入所中の妻に会いに1日に数回出る方があるが、お互いの施設で連絡を取り合う形を取り、制限をしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に外部研修への参加や、施設内研修等で職員が積極的に学ぶ機会を設けて取り組み、互いに注意し合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、知識の習得に努めながら、必要な時には活用し支援していけるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には本人家族に十分説明し理解いただき、同意を得てから手続きをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回新聞を送ったり、暑中見舞いや年賀状を出したり、担当者が写真付きで様子を伝え、家族からも意見を得るようにしている。そのほかにも会議や行事への参加時や面会時も意見を聞くようにしている。	何か変わったことがあった時にはすぐに家族に電話を入れ報告する。面会時には声がけて意見を得るようにしている。”やつかのいま”という施設の新聞、暑中見舞いや年賀状等を担当から送ることを継続している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を日頃から何でも言うことのできる関係が築けるようにしている。毎月リーダー会議と職員会議で話し合いを行っている。休みの希望はできるだけきき、調整し対応するようにしている。	必要性が感じられる場合は職員と個人的に話をする機会を持つようにしているが、日頃はミーティング等の時間でも職員が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に能力や経験を考慮し業務内容等配慮している。希望休を望む職員には考慮して勤務の調整を行っている。資格手当や超勤手当をつけてモチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規職員、パートタイマーにこだわらず外部研修や資格取得にむけての研修に積極的に参加している。毎月実施している施設内研修についても、全員が受けれるように2～3回に分けて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他事業所との意見交換できる機会を作っている。職員は外部研修や交換実習を通じて意見交換を行っている。他事業所とは新聞を送り合い、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族も交え本人と関わる時間を増やしてコミュニケーションを取りながら、心配事や不安がなくなるよう要望を受け入れ、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を設け、ご家族の意見を聴き、要望にこたえながら安心してご利用いただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け止め、どのようなサービスが必要か見極め、当事業所に限らず、他のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら、互いに助け合い信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告をしたり、電話連絡をしている。本人の好物を定期的に差し入れてもらったり、精神的に不安定になりやすい方には定期的に面会に来ていただくなど、家族と相談しながら、共に本人を支える支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との写真やなじみの物を居室に置いたり、なじみの方との電話や手紙のやりとりの支援や、懐かしい場所への外出や買い物に出かけたり、なじみの方に会いに行く支援を行っている。	受診に行く際仲の良い方と同行し、旧の役場により展示物を見たり、思い出に残っている場所に立ち寄ったり、散髪屋さんでお茶しながらくつろぐことも続けている。以前の関係を続けることに加えここでの新たな仲間づくりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関われるように職員が会話の橋渡しを行ったり、関わりを大切に声かけを行っている。ユニット間での行き来もしており、孤立することのないように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に訪問したり、家族と連絡を取ったりしており、必要な場合は相談に応じて、助言等行い支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で訴えのあったことは記録するようにしている。家族の意見は電話や面会時に聞くようして計画作成に繋げている。	主に担当が関わることで意見を聞くようにしている。モニタリングも担当が行う事で評価しながら思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人等とのコミュニケーションを大切にして話をうかがい、生活歴やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりとの関わりを大切にして様子を知り、職員同士声を掛け合い、申し送りノート等活用し、職員間で情報共有し連携を取りながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回担当がモニタリングを行い、関係者でカンファレンスして担当者会議に繋げている。看取りの場合には病院で家族、職員で担当者会議を開催し、医師の指示を得てプラン作成をしている。	かかりつけ医を受診する際意見を聞いている。家族関係者に参加を呼びかけ担当者会議を実施しているが、参加が難しい場合は事前に意見を聞くようにしている。医療の関わりの多い場合は病院で実施するケースもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜間帯での一覧の申し送り記録用紙を活用しながら、ケアの実践や気づきを記入して職員間で情報共有しケアに活かせるよう、詳細を生活記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診に付き添えない場合に受診介助を行ったり、地域の理髪店や美容院、買い物や外食等の外出支援等希望に応じて柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夕涼み会では地域のボランティアの方に出店の手伝いをしていたり、行事では餅つきの講師をしてもらい一緒に楽しむ機会があった。避難訓練には近隣の工場からも参加してもらい協力体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から本人や家族の希望をふまえ、かかりつけ医を継続したり、往診可能な協力医も確保している。歯科、眼科、整形等も要望があれば職員が付添い受診している。協力医は夜間や緊急時、看取りの際にも対応可能になっている。	往診や夜間や緊急時にも対応可能な協力医を確保している。かかりつけ医を継続して月1回のペースで職員が付添い受診し、日頃の様子を詳しく伝えることで指示を得るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には随時相談し、看護師不在時には協力医の看護師や隣接しているデイサービスの看護師に指示を仰ぎ連携を取りながら受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行い、相談員と連携を取りながら、訪問した際には医師や看護師等より状況把握に努め、退院時のカンファレンスに出向いたり、サマリーや電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	こちらで対応可能な形を十分説明したうえでご家族に示し、話し合いを重ねたうえで、協力医の支持を得て実施に繋げている。	協力医の支援体制はあるが、医療行為があまり多くなくここでの対応が可能な場合には看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救命講習を受講している。施設内研修を行うほか、ステーションにフローチャートや対応マニュアル等を貼って周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	数年前の雪害を経験したことから、備蓄に繋げている。近隣の工場や有料老人ホームやデイの関係者参加で避難訓練を実施したりと協力体制を整えている。	同敷地内でグループ全体での避難訓練を実施している。以前の経験から米の備蓄や非常時には毛布やカセットコンロ等の準備もある。施設が広いこともあり、地域へは避難場所として提供することも検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員会議でも話題に取り上げ意識している。排泄や入浴などの介護技術の中やその他の研修の中でも基本的なこととして繰り返し取り上げている。	地元のからの入所者が多い為守秘義務については会議等で度々取り上げ注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の訴えや意向を会話等から探り、自己決定できるような声かけや支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した声かけを行い、本人の意向に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の思いを大切にして衣類を選んでもらったり、買物支援や近所の理髪店や美容院への外出支援、髭そり、爪切り、化粧等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき等の調理や、盛付、皿洗い等の手伝いを職員と一緒にしている。毎食地域の食材を利用し、身近に調理することで、匂いを感じることができるようになっている。三食施設でつくっている。	地域の方と一緒に作っている野菜や、地元の魚を利用し3食作っている。大型冷蔵庫があるため保存食作りも行っている。利用者も下準備や盛り付け等できることを一緒に行うようにして、食べることで意欲に繋がるように関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスのとれた食事を提供している。食事形態も状況に応じて変え、無理なく全量摂取できるようにしている。食事量、水分量をチェック表に記入し、水分も好みの物を時間を決めず、その人に合わせてこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助により口腔ケアを行い、チェック表に記入している。一人ひとりに合わせた方法で口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し排泄介助を行っている。オムツ、RHパンツ、パット等個々に合わせて利用し時間を見て誘導し、トイレで排泄できるように支援している。介助が難しい方もおられるが、さりげない声かけをこころがけて対応している。	利用者から訴えのある場合や、排泄パターンを把握し声かけできるようにしてできるだけトイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には牛乳等の水分やヨーグルト摂取や、散歩等の運動を促し、医師に相談し処方された便秘薬で適宜コントロールしておられる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1の介助で週に2回以上入れるようにしている。家庭浴槽なので重度の場合は2人介助で出入りしあい、難しい場合はシャワー浴を行っている。足湯の場所ができたので、気分転換を兼ねて利用している。	声かけで意向を聞きながら、週に2～3回の入浴回数を確保しているが毎日の方もいる。家庭浴槽のため重度な方の場合はシャワーチェアでシャワー浴対応となるため、改造の必要性も感じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や照明もその人に応じて調整しながら良眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がセットしているが、職員も一人ひとりの既往歴の把握に努め、内服管理表をユニットで管理し、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時はチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割を持っていただき、職員も教わりながら、互いに助け合い信頼関係を築いている。役割を持ち、洗濯物干し、たみ、食事の準備や後片付けを手伝ってもらえるような環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足等の外出行事のときには職員を増員して対応している。普段は体調や天候に考慮して、町内のスーパーに買物に出かけたり、ドライブをしたり受診に行ったりしている。配車調整をしながら対応している。	遠くに出かけるような行事を年間計画で作成しており、そのための職員を確保して実施している。日頃は受診時に外出を兼ねて、買い物によったり、ドライブに出かけたりしている。施設前には景色を見ながらくつろげる場所があるため、気候が良くなると度々利用して楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお小遣い程度のお金を所持しておられる方もいる。希望時には買物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけたり、年賀状や手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中央ホールが広く、合同行事や訓練の場として利用している。足湯と中庭をぐるっと囲むように廊下があり、明るくなっている。施設周辺は自然豊かで季節の花も多く楽しめるような恵まれた環境にある。共用の空間に季節を感じる飾りや写真、植物、ぬいぐるみを置く等の工夫をしている。	玄関を入ると広いホールがあり共同の行事や訓練の場として利用している。大きくゆったりとしたソファに座り、大型テレビの楽しめる贅沢な空間になっている。左右対称の建物で和風の小庭を囲むように廊下があり、部屋からは外の景色が良く見えて、自然の中にいることを実感できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にソファやテーブル、テレビが設置され利用者の方が自由に使用できるようにし、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持ってきたなじみの家具を動きやすいように配置しゆっくりとくつろげるようにしている。トイレの有無で居室を選べるようになっている。	馴染みの物の持ち込みを積極的に薦めており、小さめのタンスや引出し、小机に椅子を置き書斎風にしたりとくつろげるような配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、安全に移動できるよう手すりも設置されている。必要に応じてコールボタンを押されたり、マットやセンサーコールを家族に十分説明し同意のもと設置し見守りを行っている。		